

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	公民館運営管理事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和56年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100404-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため開館した。 昭和56年 中央公民館開館，平成4年 郷州公民館開館，平成8年 高野公民館開館，平成11年 北守谷公民館開館	市民サービスの向上を図るために，平成24年度から指定管理者による運営を開始した。 〔指定管理者〕 アクティオ株式会社・守谷市シルバー人材センター共同事業体 〔今期指定期間〕平成27年4月1日～平成32年3月31日 5年間 〔指定事業〕 各館年間10講座以上，公民館まつり1回 〔自主事業〕 指定管理者の自己の責任と費用により，実施することができる事業
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
・利用者が安全で快適な学習活動ができる場所を提供する。 ・指定管理者による管理・運営により，市民ニーズに効果的，効率的に対応し，民間の能力活用とサービス向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が，生涯学習に自発的に参加できるよう，学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・法定点検で指摘された事項は，その都度，改善しなければならない。中央公民館は次年度以降に大規模改修を予定しているが，他3館においても老朽化に伴う設備不良が年々増加しているため，全体的な修繕計画を立てる必要がある。 ・指定管理者による管理・運営に対する適切な評価，また，更なるサービス向上を図るため，市が利用者の声を聴き，現状を把握する必要がある。	平成29年10月 施設不良箇所調査 ・公民館長にヒアリング ・現地確認 平成29年11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 平成30年2月 利用者アンケート実施 平成30年3月末 アンケートまとめ 平成30年6月末 平成29年度指定管理者評価完了 平成30年度通年 計画的な施設維持管理（修繕含む） 【中央公民館改修事業】 平成29年10月～平成30年8月 実施設計 平成30年10月～平成31年9月 改修工事
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・各公民館における施設・設備の不良箇所を調査・把握し，新年度予算計上時までに，修繕の優先順位を付ける。 ・窓口での使用受付時や公民館まつりの機会に利用者アンケートを行い，次年度6月までには指定管理者に対する評価を行う。	

次年度のコストの方向性（→その理由）

■増加 □維持 □削減	指定管理者の運営による市民サービスを継続する必要がある。 施設の老朽化に伴い，維持管理に係る費用の確保が必須であるため，維持管理費については，例年並の修繕費を計上する。 中央公民館の改修工事に伴い，工事費及び実施設計の費用が発生するため，改修工事を含めると，コストは大きく増加する。（平成30年度～31年度「中央公民館改修事業」として別途計上）
----------------------------------	---

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
指定管理者と公民館運営協力員、サークル代表者、地域住民が連携・協力して講座、イベント等を作り上げる体制を継続させる。老朽化している施設を計画的に修繕する。	公民館運営協力員会議の他に、講座検討会議や公民館まつり実行委員会を組織し、地域と公民館のつながりを強化した。各公民館における施設・設備の不良箇所を計画的に修繕し、機能改善を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
延べ利用者数（4館）（人）	203,184.00	209,343.00	208,866.00	208,866.00	208,866.00
施設の改善（修繕）件数（件）	11.00	25.00	35.00	27.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	指定管理者の提案で、市民提案型講座やサークル応援事業を実施し、高齢化等により定期サークルの規定（10人以上）に満たないサークルの救済として、公民館とサークルが協働で講座を開催し、新規会員の獲得や活動の継続につながった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	指定管理者と公民館運営協力員、サークル代表者、地域住民が連携・協力して講座、イベント等を作り上げる体制を継続させる。 老朽化している施設を計画的に修繕する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	54,288	57,351	111,356	122,996	122,996
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	677	548	8,237	14,654	547
	一般財源	53,611	56,803	103,119	108,342	122,449
正職員人工数（時間数）		0.00	217.00	940.00	0.00	940.00
正職員人件費		0	890	3,854	0	0
トータルコスト		54,288	58,241	115,210	122,996	122,996

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	図書館運営管理事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意的事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100405-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市図書館等の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成7年5月に守谷中央図書館が開館し、事業を開始した。	市民の様々な学習要求に応えるため、指定管理者制度を導入して市民サービスを向上させるとともに、市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、幼児から成人までの市民の要望に応じた幅広い資料の収集に努める。 また、図書館ネットワークを活用した図書の貸出、返却、予約、リクエスト、レファレンスなど質の高いサービスの提供を行う。 [指定管理者] 図書館流通センター・常総ビル整美共同事業体 [今期指定期間] 平成28年4月1日～平成31年3月31日 3年間
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の文化教養の向上を目指し、自由で公平な資料提供を中心とする図書館活動により、文化の発展に資する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
開館から23年目が経過し、設備の老朽化が目立ち始めているため、優先順位を付けて修繕等を実施し、市民の安全で快適な利用環境の整備に努める必要がある。	平成29年10月 施設不良箇所調査 ・図書館長にヒアリング ・現地確認 ・建物診断報告書及び点検報告書等確認 平成29年11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 平成30年度通年 計画的な施設維持管理（修繕含む）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
H28年度に建物調査診断（委託業務）を実施し、劣化状態や不具合内容を把握した。これにより、適切な修繕等を実施するに当たり、修繕・改修計画のベースとしている。 また、各種点検業務等の報告書をチェックすることで、施設・設備の不良箇所を把握し、新年度予算計上時までには、修繕の優先順位を付ける。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☒ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	施設の老朽化に伴い、維持管理に係る費用の確保が必須であるため、不良箇所の修繕費を計上する。

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
設備の老朽化が目立ち始めている。平成28年度に実施した建物調査診断（委託業務）の結果を基に、優先順位を付けて修繕等を実施する必要がある。 平成28年4月から指定管理者による図書館運営を開始したが、年度当初にスタッフの退職が相次ぎ、運営体制が不安定な時期が続いた。そのため、図書館グループ職員による指導、監督を強化する必要がある。また、資料の選定については、図書館グループのチェックを継続することにより、市民の求める資料の提供に努める必要がある。	指定管理者との連携を密にし、施設の不良箇所を把握し、迅速な修繕に努めた。 指定管理者の運営評価を行うに当たり、市のモニタリング書式「指定管理者総合評価シート」によるプレ評価を実施するとともに、図書館独自の評価項目を加えた「指定管理者総合評価追加項目シート」を作成して評価を実施した。評価結果を指定管理者と共有し、課題等の把握に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
蔵書数（点）	425, 097. 00	443, 362. 00	453, 000. 00	453, 000. 00	445, 000. 00
総貸出し数（点）	864, 539. 00	952, 042. 00	902, 000. 00	960, 000. 00	952, 000. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	施設の不良箇所の迅速な修繕に努め、利用者に快適な利用環境を提供した。 市民一人当たり500円を目安に図書資料費が確保された上で、開館日、開館時間の拡張による利用者、貸出冊数の増加があった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	設備の老朽化に対応するため、今後も計画的な修繕を継続する必要がある。 今後も市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、市民の求める資料の提供に努める。開館日、開館時間については、費用対効果を鑑み現状維持とする。			

コストの推移					
項目	H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
計	42,291	189,814	183,836	187,422	0
国・県支出金	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0
その他	132	1	1	1	0
一般財源	42,159	189,813	183,835	187,421	0
正職員人工数（時間数）	0.00	3,091.00	2,536.00	0.00	16,000.00
正職員人件費	0	12,673	10,398	0	0
トータルコスト	42,291	202,487	194,234	187,422	0